

三重県経済の現状と見通し<2013年1月>

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<p><b>景気は減速し、このところ踊り場状態</b></p> <p>県内の景気は踊り場状態にあるとみられるものの、全国対比で見れば、落ち込みは軽微な状況。</p>	→	☁
	当面の見通し	<p><b>海外景気の不透明感が根強いもと、足踏み基調で推移する見通し</b></p> <p>景気は停滞基調で推移し、力強い回復は当面見込み薄。ただし、円安に伴って輸出が回復し、早期に景気は持ち直す可能性も。</p>	→	☁
家計部門	個人消費	<p><b>やや弱い動き</b></p> <p>冬物衣料を中心に大型小売店の販売が堅調な反面、普通車を中心に新車乗用車販売がやや不調。</p>	→	☁
	住宅投資	<p><b>底離れ</b></p> <p>住宅着工は、貸家や分譲住宅が好調となったほか、持家も500戸の大台をキープ。</p>	→	☁☔
	観光	<p><b>持ち直し</b></p> <p>正月3が日の県内観光施設の入込客数や、年末年始における主要交通機関の交通量は前年比増加。</p>	↗	☁
	雇用・所得	<p><b>やや弱い動き</b></p> <p>有効求人倍率(季節調整値)は低下傾向が持続したほか、新規求人数(学卒・パートを除く)はおよそ3年振りの2桁減。</p>	→	☀☁
企業部門	企業活動	<p><b>弱めながらも底堅い動き</b></p> <p>鉱工業生産指数は、輸送機械が小幅な低下にとどまるなど堅調な動きで、全国とはかなり様相を異にする状況。</p>	→	☁
	企業倒産	<p><b>小康状態</b></p> <p>倒産件数は前年比減少したほか、負債総額も、大型倒産のあった昨年の反動で大幅減。</p>	→	☁
	設備投資	<p><b>堅調</b></p> <p>非居住用建築物着工床面積や貨物車登録台数が減速した一方、資本財生産は好調を維持。</p>	→	☀☁
海外部門	輸出	<p><b>減少基調</b></p> <p>四日市港通関輸出額は減少傾向が続いたものの、自動車の部品品が下支え役となり、マイナス幅は縮小。</p>	→	☁
公共部門	公共投資	<p><b>減速</b></p> <p>公共工事請負金額は、やや減速の兆しもみられるものの、引き続き増加基調。</p>	→	☁
その他	物価	<p><b>ほぼ横這いで推移</b></p> <p>消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、前年比+0%台の小幅な上昇。</p>	→	△

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗:上方修正、→:据え置き、↘:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

☀:晴、☀☁:晴～曇、☁:曇、☁☔:曇～雨、☔:雨、を示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 渡辺
	電話:059-354-7102 Mail:mir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向:家計部門

個人消費 やや弱い動き

＜現状＞

- 個人消費は、やや弱い動き。
- まず、『家計調査』より、個人消費の動向を支出者側からみると(図表1)、11月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比▲12.2%と、可処分所得の弱含みなどを背景に再び減少。品目別にみると、被服・履物(同▲32.4%)、教養・娯楽(同▲27.3%)、交通・通信(同▲25.8%)などが大幅減。
- 次に、『大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表2)、11月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、食品スーパーの相次ぐ出店などを背景に、新店を含むベースでは前年比+2.8%と、過去3年で最大の伸びとなったほか、既存店ベースでも同+0.2%と堅調。2012年11月は北勢地域などで最低気温が氷点下を記録するなど、例年と比べて寒い日が多く、コートやセーターといった冬物衣料や鍋物食材などの売れ行きが好調だったほか、歳暮・クリスマス・お節などの季節商戦もまずまず。
- 一方、12月の新車乗用車販売(含む軽)をみると(図表3)、5,926台・前年比▲2.0%と、2か月振りの減少となったものの、マイナス幅は小幅。なお、2012年の新車乗用車販売(含む軽)は93,133台・前年比+29.8%と、東日本大震災によるサプライチェーンの寸断で供給が滞った2011年(同▲16.7%)の反動に加え、エコカー補助金による需要押し上げ効果もあって、3割近い伸びを記録し、5年振りの90,000台超え。

＜見通し＞

- 各種報道によると、当面の消費動向を占う百貨店やショッピングモール、専門店などの初売り商戦については、年始の日並びが良かったことも手伝って概ね好調。所定外労働時間の減少などに伴って勤労者の手取りベースでの収入は伸び悩んでいるものの、今後は株価の上昇などに伴うマインド好転が見込まれ、消費は持ち直しの動きを辿ることも十分に期待される状況。
- このうち乗用車については、各メーカーから軽ハイトワゴンのニューモデルが発売されて市場が活性化するなか、販売の好調な状態が見込まれるものの、その分小型車のマーケットが侵食されているとの側面も否定できず、総じてみればエコカー補助金効果の剥落でやや厳しい状況が続く見通し。

◆11月 勤労者世帯・消費支出

前年比▲12.2% (2か月振りの減少)

◆11月 大型小売店販売額

- ・全店 前年比+2.8% (6か月振りの増加)
- ・既存店 前年比+0.2% (6か月振りの増加)

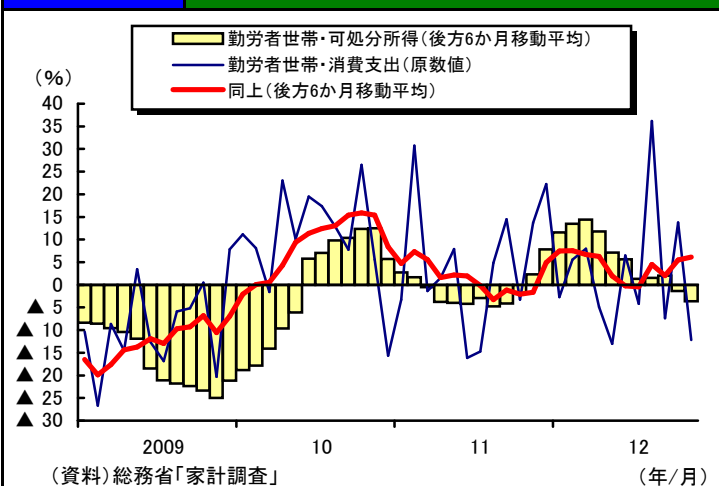
◆12月 新車乗用車登録台数<含む軽>

5,926台 前年比▲2.0% (2か月振りの減少)

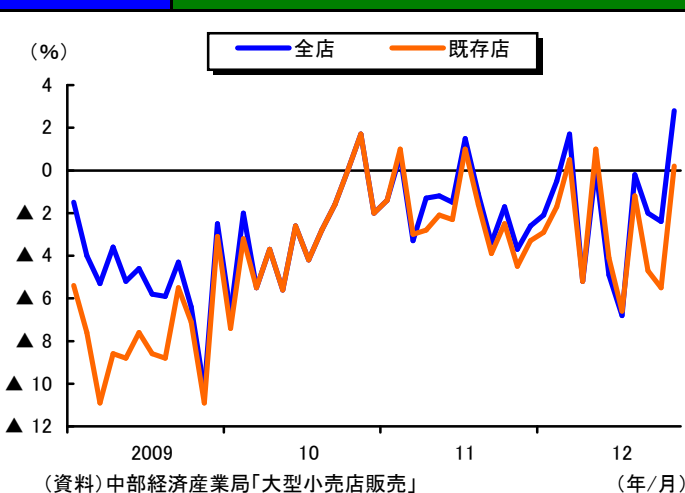
◆2012年 新車乗用車登録台数<含む軽>

93,133台 前年比+29.8% (2年振りの増加)

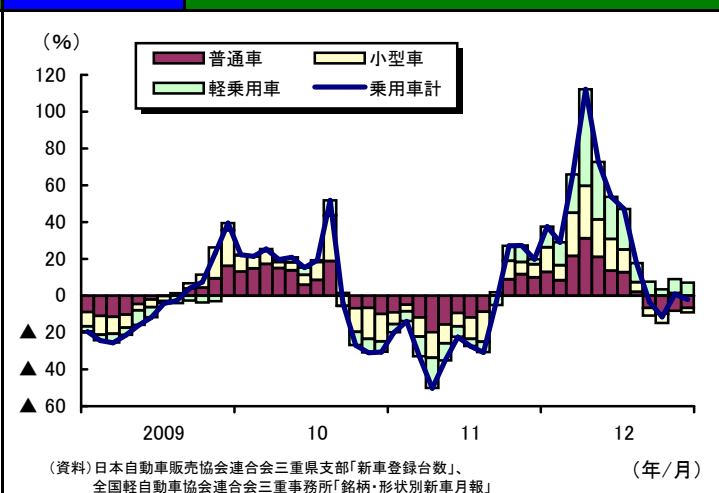
図表1 津市・消費支出等<前年比>



図表2 県内大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



**住宅投資**

**底離れ**

◀現状▶

- 住宅投資は、底離れ。
- 11月の住宅着工戸数をみると(図表4)、914戸・前年比+1.4%と、まずまずの動き。利用関係別にみると、貸家(同+29.5%)や分譲住宅(同+26.2%)が好調だったほか、持家(同▲13.0%)は2桁減となったものの、500戸の大台をキープ。さらに、市別にみると、着工規模の大きい津市(同▲22.7%)や四日市市(同▲2.2%)が弱い動きとなった一方、名古屋圏のベッドタウンとして機能している桑名市(同+182.1%)が好調。

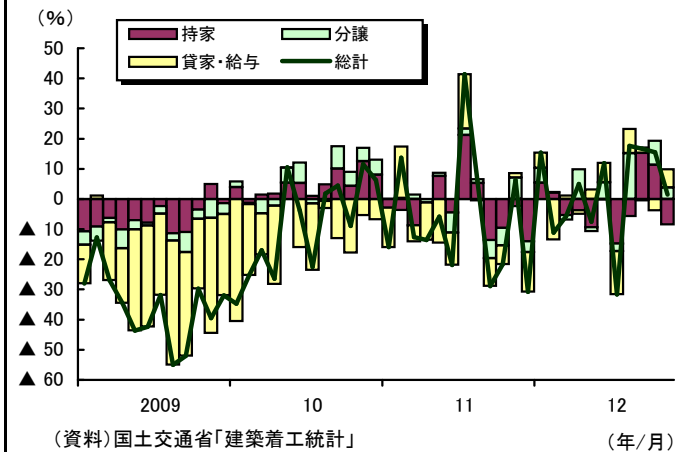
◀見通し▶

- 政府は消費増税後の住宅市況冷え込みを防ぐため、住宅ローン減税の延長・制度拡充を検討していると伝えられているものの、政策的な目新しさには乏しいことから、増税前の駆け込み需要は大きくなると予想。
- 県内では新規宅地の追加的な供給余地は限られているものの、世帯主が30歳代を中心とした「住宅取得予備軍」による物件探しの動きが徐々に活発化してきているとみられることから、住宅着工は持ち直し基調が明確化する見通し。

◆11月 住宅着工戸数

- 914戸 前年比+1.4%(4か月連続の増加)
- ・持家:510戸  
前年比▲13.0%(3か月振りの減少)
- ・貸家:237戸  
前年比+29.5%(2か月振りの増加)
- ・給与住宅:3戸  
前年比+50.0%(2か月振りの増加)
- ・分譲住宅:164戸  
前年比+26.2%(2か月連続の増加)

図表4 新設住宅着工戸数<前年比>



**観光**

**持ち直し**

◀現状▶

- 観光は、持ち直し。
- 10月の鳥羽水族館の入場者数をみると、前年比▲10.0%と、2か月振りのマイナス。
- その一方、本年の正月3が日の県内観光16施設の入込客数は、777,158人・前年比+6.5%となり、このうち伊勢神宮の参拝者数は556,522人と、過去3年で最多。さらに、各交通機関の動向をみると、3が日におけるJR伊勢市駅の乗降客数は前年比+17%の大幅増となったほか、年末年始期間における伊勢自動車道の1日当たり交通量は前年比+7%となるなど、伊勢志摩地域を中心に年始の観光は好調なスタート。

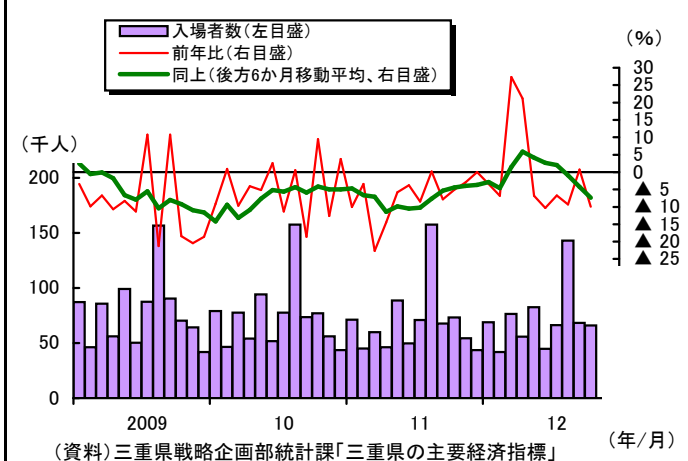
◀見通し▶

- 伊勢神宮の式年遷宮は、御神体を旧殿から新殿に遷す「遷御(今秋に開催)」で佳境を迎える予定。外宮にある「せんぐう館」の入館者数も当初の想定を上回るペースとなっており、遷宮に対する観光客の関心はますます高まっていると判断。こうした点を踏まえると、伊勢志摩エリアの集客力向上を背景に、県内の観光は持ち直しの動きが強まる公算が大。

◆10月 鳥羽水族館入場者数

- 65,887人 前年比▲10.0%(2か月振りの減少)

図表5 鳥羽水族館入場者数



**雇用・所得 やや弱い動き**

＜現状＞

- 雇用・所得情勢は、やや弱い動き。
- 11月の求人倍率をみると(図表6)、有効求人倍率(季節調整値)は0.83倍・前月比▲0.02ポイントと、低下傾向が持続したほか、新規求人倍率(同)は1.24倍・同▲0.13ポイントと、一進一退で推移。なお、有効求人倍率(原数値、11月:0.93倍)を県下9つの職業安定所別にみると、製造業の集積地である鈴鹿(0.73倍)や四日市(0.86倍)などが県内平均をやや下回っている状況。
- 11月の新規求人数(学卒・パートを除く)をみると(図表7)、前年比▲10.5%と、2009年12月(同▲14.7%)以来の2桁減。業種別にみると、建設業(同+25.6%)の好調さが際立った反面、求人規模の大きい卸売・小売業(同▲37.7%)、製造業(同▲33.3%)、サービス業(同▲30.8%)がいずれも3割を超す大幅減。さらに、製造業の内訳をみると、輸送用機械(同▲61.4%)が6割減となるなど、顕著な落ち込みとなったほか、食料品(同▲1.1%)など内需型産業も冴えない動き。
- 10月の所定外労働時間指数をみると(図表8)、前年比▲0.7%と、僅かながら2か月連続の減少。このうち製造業に着目すると、同▲10.3%と、自動車関連などで東日本大震災に伴う減産分を取り戻す「挽回生産」が始まった昨年の反動などもあって、2桁のマイナス。その一方、名目賃金指数(同+1.5%)・実質賃金指数(同+1.6%)・常用雇用指数(同+1.6%)をみると、全産業平均ではいずれもプラスを維持しており、概ね堅調な動き。

＜見通し＞

- 本年3月の中小企業金融円滑化法の期限到来を目前に控え、中小・零細企業の倒産増加などが懸念されるものの、ドル円相場が3か月でおおよそ10円円安に振れるなど、歴史的な円高水準が修正される展開を辿るなか、輸出を手掛ける大手・中堅処を中心に、業況の持ち直しが期待される状況。
- 上記の点を勘案すれば、県内で大幅な人員削減に踏み切る企業が増えるといった展開は見込みにくく、雇用・所得情勢は当面、弱いながらも現状程度で一進一退の動きを辿る見通し。

◆11月 求人倍率<季節調整値>

- ・有効求人倍率:0.83倍  
前月比▲0.02ポイント(4か月連続の低下)
- ・新規求人倍率:1.24倍  
前月比▲0.13ポイント(3か月振りの低下)

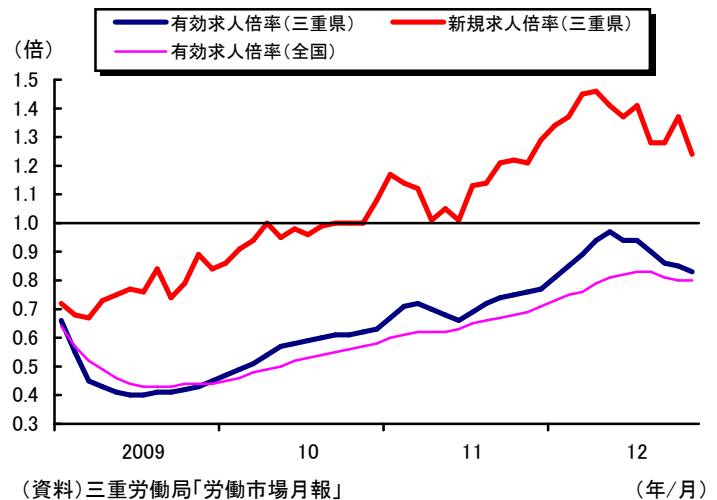
◆11月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

5,304人 前年比▲10.5%(2か月振りの減少)

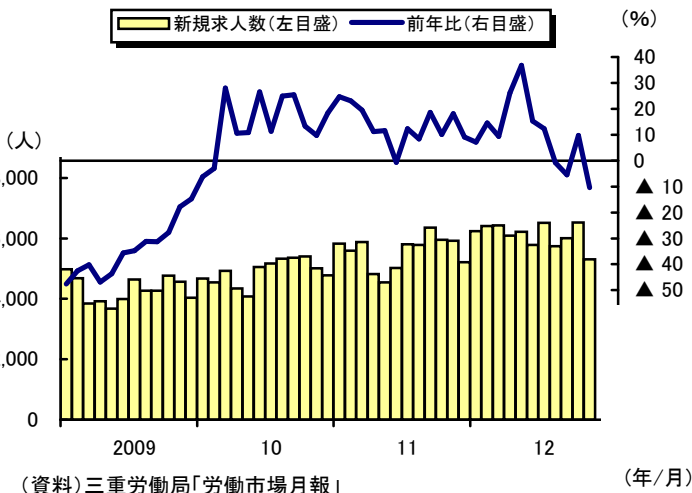
◆10月 雇用・所得関連指標<調査産業計>

- ・常用雇用指数  
前年比+1.6%(10か月連続の上昇)
- ・所定外労働時間指数  
前年比▲0.7%(2か月連続の低下)
- ・名目賃金指数  
前年比+1.5%(3か月連続の上昇)

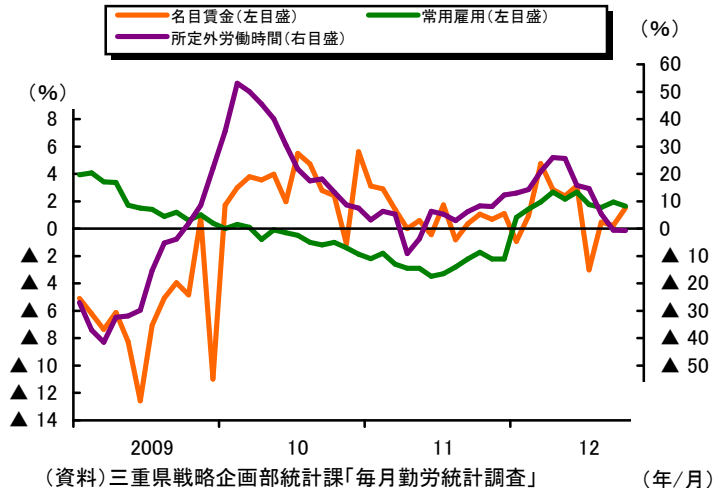
図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



図表8 雇用・労働時間・賃金指数 <調査産業計、前年比>



### 3. 個別部門の動向: 企業部門

#### 企業活動

#### 弱めながらも底堅い動き

##### 《現状》

- 企業の生産活動は、弱めながらも底堅い動き。
- 10月の鉱工業生産指数をみると(図表9)、前年比+6.4%と、3か月振りの前年比上昇。なお、業種別にみると、主力の輸送機械(同▲2.2%)は小幅な低下にとどまったほか、電子部品・デバイス(同+49.7%)や一般機械(同+2.6%)などがプラス。10月の全国値(鉱工業:同▲4.5%、輸送機械:同▲12.2%、電子部品・デバイス:同+6.9%、一般機械:同▲12.4%)と比較すると、かなり様相を異にする状況。

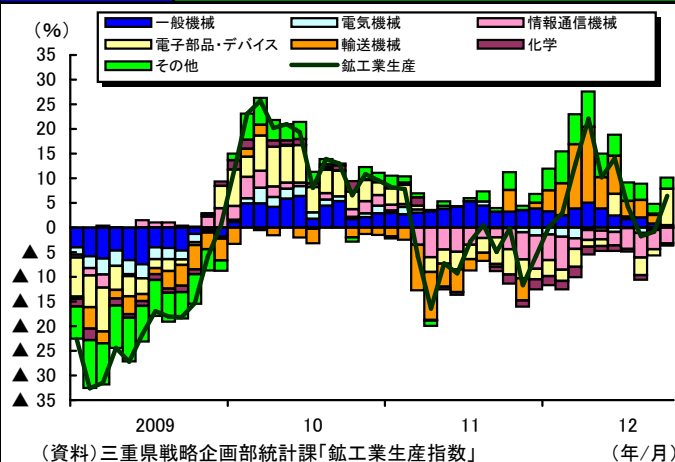
##### 《見通し》

- 輸送機械の今後を展望すると、三重県には人気の軽乗用車・Nシリーズを生産するホンダ鈴鹿製作所や、2012年の販売ランキング(除く軽)で10・17位を占めるなど、根強い支持を集めるヴェルファイア・アルファードを生産するトヨタ車体いなべ工場が立地しているという個社要因を背景に、高水準を維持する見通し。
- さらに、電子部品・デバイスの先行きを見通しても、シャープが亀山第2工場で生産している酸化半導体(IGZO)を用いた消費電力の少ない液晶パネルを、内外のパソコン・携帯電話メーカーに拡販すると伝えられていることから、工場稼働率の向上が期待され、鉱工業全体を押し上げるインパクトが強まる見通し。

#### ◆10月 鉱工業生産

- 前年比+6.4%(3か月振りの上昇)
  - ・一般機械 前年比+2.6%(34か月連続の上昇)
  - ・電気機械 前年比+0.8%(14か月振りの上昇)
  - ・情報通信機械 前年比▲91.4%(20か月連続の低下)
  - ・電子部品・デバイス 前年比+49.7%(3か月振りの上昇)
  - ・輸送機械 前年比▲2.2%(11か月振りの低下)
  - ・化学 前年比▲0.6%(2か月振りの低下)

図表9 鉱工業生産<前年比>



(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」

(年/月)

#### 企業倒産

#### 小康状態

##### 《現状》

- 企業倒産は、増加の兆しがややみられるものの、小康状態。
- 12月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は(図表10)、2か月振りの1桁台となったほか、負債総額も、350億円を越す大型倒産があった昨年の反動もあって大幅減。なお、2012年の企業倒産は、件数が3年振りの増加。その一方、多額の預託金を抱えて負債が膨らみがちなゴルフ場の倒産が1件発生したものの、負債総額は2年振りの減少。

##### 《見通し》

- 国の補正予算編成による緊急経済対策の一環で、全国的に大規模な公共事業が実施されると見込まれることから、建設業などの業況が上向くと予想されるうえ、歴史的な円高水準の修正に伴い、輸出関連企業の業況悪化にも歯止めが掛かると見込まれることから、倒産増加のリスクは低下しつつあると判断。

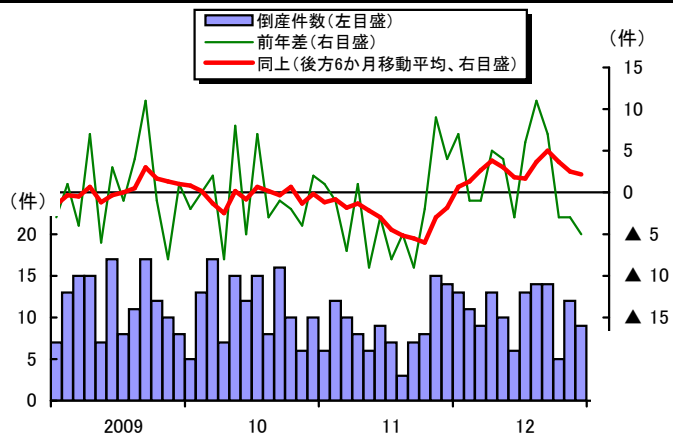
#### ◆12月 企業倒産

- ・倒産件数: 9件 前年差▲5件(3か月連続の減少)
- ・負債総額: 4,405百万円 前年差▲32,771百万円(3か月連続の減少)

#### ◆2012年 企業倒産

- ・倒産件数: 129件 前年差+24件(3年振りの増加)
- ・負債総額: 59,764百万円 前年差▲2,134百万円(2年振りの減少)

図表10 倒産件数<負債総額1,000万円以上>



(資料)㈱東京商工リサーチ津支店

(年/月)

**設備投資 堅調**

《現状》

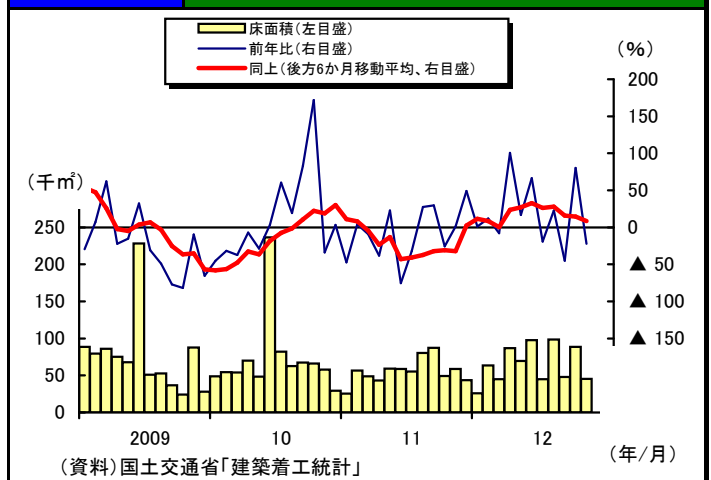
- 企業の設備投資は、堅調。
- 11月の非居住用建築物着工床面積をみると(図表11)、前年比▲22.4%と再び減少に転じ、後方6か月移動平均値でもやや減速。さらに、12月の貨物車登録台数(除く軽)は同▲16.6%と、2か月連続の2桁マイナスとなり、トラック販売は頭打ち。その一方、企業が生産活動などで用いる機械設備といった資本財の10月生産(同+9.7%)は、33か月連続のプラスと好調を維持。

《見通し》

- 県内では北勢地域を中心に、化学メーカーが売れ筋商品を増産するためにラインを新造するなど、新規投資のニュースがコンスタントに伝えられている状況(詳細は8ページ「県内経済トピックス」の2.を参照)。こうした点を踏まえれば、大手処を中心に企業の投資マインドはまずまずと判断され、今後も設備の新增設といった動きが一定程度みられる見通し。

◆11月 非居住用建築物着工床面積  
前年比▲22.4%(2か月振りの減少)

図表11 非居住用建築物着工床面積



4. 個別部門の動向:海外部門

**輸出 減少基調**

《現状》

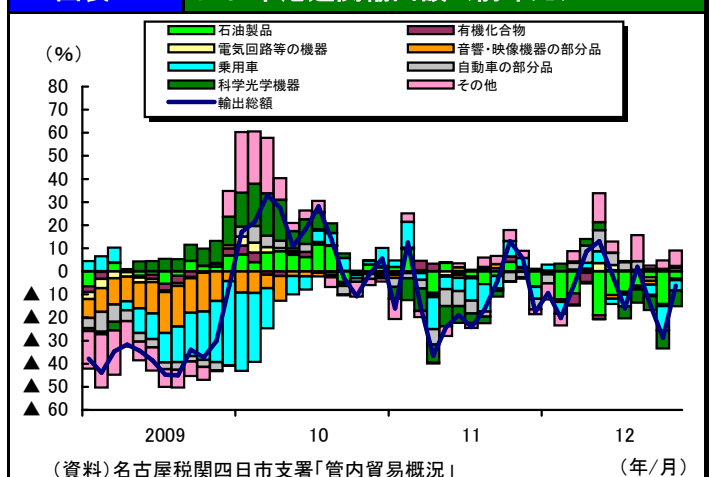
- 輸出は、減少基調。
- 11月の四日市港通関輸出額をみると(図表12)、759億円・前年比▲6.3%と、3か月連続の減少となったものの、マイナス幅は10月(同▲28.8%)より縮小。品目別にみると、液晶関連部品を主力とする科学光学機器(51億円・前年比▲52.6%)がほぼ半減となった一方、自動車の部分品(82億円、同+7.3%)はまずまず好調。これを仕向地別にみると、中国向け(7.4億円、同▲45.4%)は日系自動車メーカーの販売不振を受けて大きく落ち込んだものの、タイ(12.7億円、同+52.2%)や米国向け(12.4億円、同+10.1%)などがカバー。

《見通し》

- 中国における日系主要メーカーの2012年12月新車販売は前年比2割程度の減少と、本格的な反転にはまだ遠いものの、軒並みマイナス幅が縮小し、これに伴って各メーカーの工場とも減産態勢が緩和。これに伴って、自動車部品の同国向け輸出は緩やかながら持ち直す見通し。さらに、ASEAN向けや北米・中南米向けも好調を維持すると見込まれるうえ、円安も追い風となることから、自動車部品の輸出牽引力拡大に期待。

◆11月 四日市港通関輸出額  
759億円 前年比▲6.3% (3か月連続の減少)  
・石油製品:50億円  
前年比▲34.1%(12か月連続の減少)  
・有機化合物:66億円  
前年比+23.8% (2か月振りの増加)  
・電気回路等の機器:41億円  
前年比▲9.8% (4か月連続の減少)  
・乗用車:48億円  
前年比▲42.3% (6か月連続の減少)  
・自動車の部分品:82億円  
前年比+7.3% (2か月連続の増加)  
・科学光学機器:51億円  
前年比▲52.6% (5か月連続の減少)

図表12 四日市港通関輸出額<前年比>



## 5. 個別部門の動向:公共部門

### 公共投資 減速

#### 《現状》

○公共投資は、減速。

○12月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比▲13.8%と、3か月振りの減少となった反面、請負金額は(図表13)、同+25.7%と高い伸び。なお、2012年の公共工事は、請負件数・請負金額とも前年比2割を超す増加。2011年9月に発生した紀伊半島大水害からの復旧・復興工事が全体を大きく押し上げ。

#### 《見通し》

○三重県では、2012年度12月補正予算(その1~その4)において、公共事業関連費用(土木費+災害復旧費)が100億円を超す増額補正。さらに、1月11日に閣議決定された国の緊急経済対策の内容をみても、老朽化・防災対策、国際競争力強化などを名目に、公共事業関連の補正予算は5兆円強と、当初予算(約4.6兆円)に匹敵する規模になることから、県内に及ぼすインパクトも大きくなると予測。今後はこれら予算の執行に伴うプラスの影響が現れ、公共投資は再び増勢が強まる公算が大。

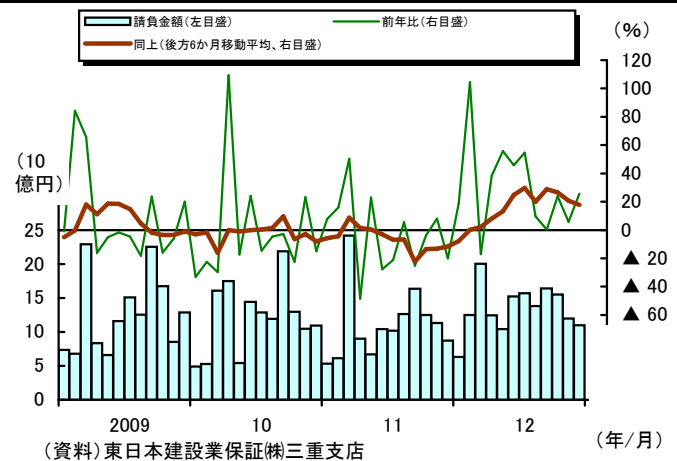
#### ◆12月 公共投資

- ・公共工事請負件数:436件  
前年比▲13.8%(3か月振りの減少)
- ・公共工事請負金額:10,978百万円  
前年比+25.7%(9か月連続の増加)

#### ◆2012年 公共投資

- ・公共工事請負件数:4,540件  
前年比+22.4%(2年振りの増加)
- ・公共工事請負金額:161,339百万円  
前年比+20.9%(3年振りの増加)

図表13 公共工事請負金額



## 6. 個別部門の動向:その他

### 物価 ほぼ横這いで推移

#### 《現状》

○物価は、ほぼ横這いで推移。

○11月の三重県消費者物価指数(CPI、5市平均・生鮮食品を除く)をみると(図表14)、前年比+0.3%と、10月(同+0.3%)と同程度の伸び。品目ごとにみると、食料(生鮮食品を除く)の伸びが縮小した(10月:同+0.7%→11月:同+0.3%)一方、薄型テレビやパソコンといったデジタル家電を主とする教養・娯楽が下げ止まり(10月:同▲1.3%→11月:同▲0.2%)。

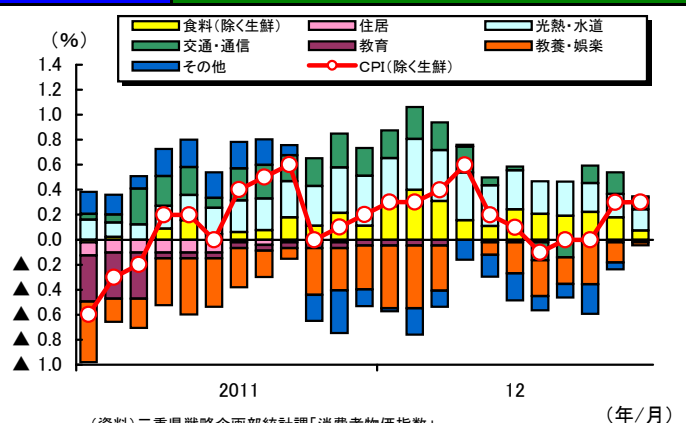
#### 《見通し》

○主要な石油製品の値動きをみると、暖房需要の拡大などを背景に、灯油が前年比+20%程度の上昇となっているのが目立つ一方、ガソリンは+5%程度の上昇にとどまっているほか、石油化学工業の原材料となるナフサはほぼ横這いと、製品によってバラツキ。こうした点を踏まえると、物価上昇のモメンタムは決して強くないと判断され、県内のCPIは引き続き前年比+0%台での緩やかな上昇にとどまる見通し。

#### ◆11月 消費者物価指数<生鮮食品を除く>

- 前年比+0.3%(2か月連続の上昇)
- ・食料(生鮮食品を除く)  
前年比+0.3%(20か月連続の上昇)
  - ・住居  
前年比▲0.1%(3か月連続の低下)
  - ・光熱・水道  
前年比+2.1%(23か月連続の上昇)
  - ・交通・通信  
前年比+0.6%(3か月連続の上昇)
  - ・教育  
前年比 0.0%
  - ・教養娯楽  
前年比▲0.2%(7か月連続の低下)

図表14 消費者物価指数<前年比>



# 県内経済



# トピックス

(2012年12月)

## 1. 鈴鹿市が市制70周年を迎え記念式典を開催

- 12月1日、鈴鹿市が1942(昭和17)年の市制施行から70周年を迎え、市民会館で記念式典を開催し、来賓や関係者ら約900人が出席。
- 同市出身の和太鼓・トランペット奏者によるオープニングセッションののち、末松則子市長が挨拶。市政の発展に貢献した3人の歴代市長(第4代:衣斐賢讓氏、第5代:加藤栄氏、第6代:川岸光男氏)の3名に特別感謝状を贈呈したほか、地方自治・教育文化・社会福祉・産業・治安防災の5分野における市政功労者183人・2団体を表彰。
- 式典後には、鈴鹿と・き・め・きサイエンス大使で三重県立神戸高校(鈴鹿市神戸)出身の川戸佳・東京大学大学院教授による講演「大使が話すとっても面白い脳の話」が開催。

## 2. 出光ユニテックが三重工場にジッパーテープの生産ラインを新設

- 12月11日、国内石油元売大手である出光興産の100%子会社で、フィルムやシートをはじめとする合成樹脂加工品の製造・販売を手掛ける出光ユニテック(本社:東京都港区)が、食品の保存用袋や布団圧縮袋などに用いられているジッパーテープについて、三重工場(亀山市)を第2拠点として新しく生産ラインを設置することを発表。
- 同社が製造するジッパーテープ「プラロック」は、1986年に開発された商品で、後付け方式とすることによって袋の素材に合わせて自由にカスタマイズできるという特長が評価され、国内外で高い販売シェアを獲得(国内1位、世界3位)。
- 同製品はこれまで静岡工場(静岡県裾野市)のみで生産されてきたものの、用途が医薬品などに拡大し、今後も高い需要の伸びが期待できることから、2拠点体制とすることによって安定供給体制を構築。

## 3. 東名阪自動車道 四日市IC付近での3車線暫定運用が開始

- 12月19日、中日本高速道路が、全国屈指の渋滞ポイントとなっている東名阪自動車道 四日市インターチェンジ(IC)ー鈴鹿IC間における2車線の一部区間について、暫定的に3車線での運用を開始。
- 3車線での運用が始まったのは、上り線が四日市ICー四日市東IC間の約3km、下り線が四日市東ICー鈴鹿IC間の約5km。道路の幅員を2車線時の3.5mから3.25mに、路肩の幅員を同じく3mから0.75mに縮小させるとともに、中央分離帯のうち0.5m分も活用して1車線を追加。さらに、緊急時に備えて概ね500m間隔で非常駐車帯も設置。
- 上記措置により、同社は四日市ジャンクション(JCT)ー亀山JCT間の渋滞量が2車線時と比べて半分程度に減少すると予想しており、伊勢神宮の式年遷宮を間近に控えるなか、定時性の向上が期待される状況。
- なお、2012年末～2013年始における東名阪自動車道の交通状況をみると、全体的には渋滞の発生回数はあまり変わらなかったものの、上記3車線区間を起点とする渋滞がなくなるなど、3車線化が早くも効果を発揮。

## 4. 四日市市が「四日市市観光大使」を選任

- 12月26日、2011年度を「観光元年」と位置付けている四日市市が、市の魅力発信強化を目的に、市出身の著名人を「四日市市観光大使」に選任。
- 選任されたのは、落語家の桂福團治氏、映画監督の瀬木直貴氏、シンガーソングライターのMs. OOJA氏ら5名で、任期は本年1月1日から3年間。
- 各大使にはそれぞれの活動分野においてシティセールスや観光・物産のPRを行ってもらい、具体的には、本人のブログや雑誌インタビュー、コンサートなどで市の魅力を発信してもらう方針。
- なお、観光大使は今回選任された5名のほかにも随時、追加の予定。



## 景 気 指 標

三重銀総研  
2013/1/15

## &lt;三重県&gt;

(注) ( )内は前年(同期(月))比 &lt; &gt;内は季節調整前期(月)比

	2011年	2012年	2012年				2012年				
			1~3	4~6	7~9	10~12	8月	9月	10月	11月	12月
鉱工業生産指数	(▲ 4.1)		( 5.2)	( 15.2)	( 0.6)		(▲ 1.7)	(▲ 0.9)	( 6.4)		
	-		< 14.1>	<▲ 2.6>	<▲ 6.5>		<▲ 2.2>	<▲ 4.3>	< 8.6>		
生産者製品在庫指数	( 0.9)		( 3.3)	( 22.5)	( 47.6)		( 38.6)	( 40.5)	( 38.3)		
	-		< 4.5>	< 7.4>	< 25.0>		<▲ 14.1>	< 2.5>	< 2.5>		
大口電力消費量 (百万KWh)	8,744 ( 3.4)		2,232 ( 8.3)	2,221 ( 7.4)	2,367 ( 2.1)		777 ( 1.9)	778 ( 0.7)	778 (▲ 2.2)	731 (▲ 3.3)	
新設住宅着工戸数(戸)	9,392 (▲ 8.0)		2,117 (▲ 1.5)	2,389 ( 2.8)	2,459 (▲ 5.2)		935 ( 17.6)	708 ( 16.6)	844 ( 15.5)	914 ( 1.4)	
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	667 (▲ 23.9)		134 ( 2.4)	254 ( 57.3)	191 (▲ 14.2)		99 ( 23.0)	48 (▲ 45.1)	89 ( 80.4)	45 (▲ 22.4)	
公共工事請負金額(億円)	1,334 (▲ 7.8)	1,613 ( 20.9)	389 ( 9.2)	381 ( 45.8)	459 ( 17.4)	384 ( 18.1)	138 ( 9.6)	164 ( 0.2)	155 ( 23.9)	120 ( 5.8)	110 ( 25.7)
大型小売店販売額(全店)	(▲ 1.6)		(▲ 0.4)	(▲ 3.4)	(▲ 3.1)		(▲ 0.2)	(▲ 2.0)	(▲ 2.4)	( 2.8)	
同 (既存店)	(▲ 2.1)		(▲ 1.5)	(▲ 2.8)	(▲ 4.2)		(▲ 1.2)	(▲ 4.7)	(▲ 5.5)	( 0.2)	
新車登録・販売台数(台)	51,969 (▲ 16.3)	63,113 ( 21.4)	21,092 ( 43.6)	14,215 ( 66.1)	15,519 ( 8.3)	12,287 (▲ 14.6)	4,252 ( 8.2)	5,144 (▲ 12.8)	4,026 (▲ 19.0)	4,417 (▲ 10.7)	3,844 (▲ 14.0)
軽自動車登録・販売台数(台)	32,816 (▲ 15.0)	44,757 ( 36.4)	13,315 ( 40.9)	10,942 ( 73.5)	10,793 ( 29.7)	9,707 ( 11.1)	2,984 ( 20.2)	3,519 ( 17.4)	3,030 ( 6.2)	3,528 ( 14.1)	3,149 ( 12.8)
有効求人倍率(季調済)	0.71		0.85	0.95	0.90		0.90	0.86	0.85	0.83	
新規求人倍率(季調済)	1.13		1.39	1.41	1.32		1.28	1.28	1.37	1.24	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	66,705 ( 13.7)		19,079 ( 10.3)	18,096 ( 25.8)	18,257 ( 1.8)		5,738 (▲ 0.7)	6,002 (▲ 5.5)	6,523 ( 9.7)	5,304 (▲ 10.5)	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.9)		( 1.6)	( 2.8)	(▲ 1.1)		( 0.5)	( 0.2)	( 1.5)		
実質賃金指数(同)	( 0.8)		( 1.0)	( 2.4)	(▲ 0.8)		( 0.7)	( 0.6)	( 1.6)		
所定外労働時間(同)	( 4.4)		( 16.1)	( 22.2)	( 6.4)		( 5.4)	(▲ 0.5)	(▲ 0.7)		
常用雇用指数(同)	(▲ 2.5)		( 1.4)	( 2.5)	( 1.8)		( 1.5)	( 2.0)	( 1.6)		
企業倒産件数(件)	105	129	33	29	41	26	14	14	5	12	9
(前年同期(月)差)	(▲ 29)	( 24)	( 5)	( 6)	( 24)	(▲ 11)	( 11)	( 7)	(▲ 3)	(▲ 3)	(▲ 5)
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 884,615		▲ 250,845	▲ 311,299	▲ 272,826		▲ 83,901	▲ 106,387	▲ 49,563	▲ 65,057	
輸出(百万円)	1,086,008 (▲ 10.7)		259,864 (▲ 12.5)	258,709 ( 6.0)	241,466 (▲ 11.1)		81,137 (▲ 6.2)	77,973 (▲ 19.1)	82,192 (▲ 19.0)	80,178 (▲ 5.0)	
輸入(百万円)	1,970,623 ( 38.4)		510,709 ( 18.6)	570,008 ( 10.5)	514,293 ( 0.4)		165,038 (▲ 13.0)	184,360 ( 14.6)	131,755 (▲ 19.5)	145,235 (▲ 10.4)	
四日市港 輸出(百万円)	983,790 (▲ 13.0)		231,003 (▲ 12.3)	232,498 ( 6.4)	219,416 (▲ 9.9)		76,550 ( 2.0)	72,288 (▲ 14.4)	69,564 (▲ 28.8)	75,892 (▲ 6.3)	
自動車輸出金額 (億円)	993 (▲ 28.2)		368 (▲ 7.2)	195 ( 21.0)	79 (▲ 52.8)		24 (▲ 24.0)	32 (▲ 53.5)	21 (▲ 83.1)	48 (▲ 42.3)	
乗用車輸出台数(台)	78,884 (▲ 19.5)		27,836 (▲ 1.0)	14,011 ( 25.1)	4,951 (▲ 67.8)		1,452 (▲ 54.9)	2,149 (▲ 63.6)	1,595 (▲ 84.5)	2,491 (▲ 68.6)	
消費者物価指数・除く生鮮(三重県)	( 0.1)		( 0.3)	( 0.3)	( 0.0)		( 0.0)	( 0.0)	( 0.3)	( 0.3)	
同 (津市)	( 0.2)		( 0.3)	( 0.3)	( 0.0)		( 0.0)	( 0.0)	( 0.2)	( 0.2)	

## &lt;東海3県(三重・愛知・岐阜)&gt;

	2011年	2012年	2012年				2012年				
			1~3	4~6	7~9	10~12	8月	9月	10月	11月	12月
鉱工業生産指数	(▲ 6.4)		( 14.1)	( 24.8)	(▲ 0.8)		(▲ 2.2)	(▲ 8.2)	(▲ 4.0)		
	-		< 8.1>	<▲ 0.3>	<▲ 8.4>		<▲ 4.1>	<▲ 6.3>	< 1.7>		
新設住宅着工戸数(戸)	76,934 (▲ 3.0)		17,766 (▲ 6.2)	17,921 (▲ 1.2)	19,194 (▲ 10.8)		6,998 (▲ 2.7)	6,111 ( 2.6)	7,574 ( 24.4)	6,744 ( 13.4)	
大型小売店販売額(全店)	(▲ 1.1)		( 0.2)	( 0.8)	(▲ 1.5)		( 0.8)	(▲ 0.3)	(▲ 3.5)	( 2.0)	
同 (既存店)	(▲ 1.0)		(▲ 0.5)	(▲ 1.0)	(▲ 1.9)		( 0.5)	(▲ 1.1)	(▲ 3.6)	( 1.7)	
有効求人倍率(季調済)	0.83		0.99	1.11	1.07		1.08	1.03	1.01	0.99	
新規求人倍率(季調済)	1.30		1.60	1.69	1.54		1.56	1.43	1.58	1.49	
企業倒産件数(件)	1,178	1,086	280	304	286	216	92	100	65	81	70
(前年同期(月)差)	( 104)	(▲ 92)	(▲ 60)	(▲ 29)	( 52)	(▲ 55)	( 25)	( 17)	(▲ 23)	(▲ 26)	(▲ 6)
域内外国貿易 純輸出(億円)	43,978		12,233	13,407	11,262		3,404	3,821	4,881	4,114	
輸出(億円)	121,801 (▲ 4.2)		32,448 ( 5.7)	34,463 ( 32.7)	32,541 (▲ 0.4)		10,516 ( 6.6)	10,761 (▲ 9.3)	11,104 (▲ 0.0)	10,497 ( 3.6)	
輸入(億円)	77,823 ( 21.9)		20,215 ( 13.2)	21,055 ( 6.9)	21,279 ( 3.1)		7,112 (▲ 4.3)	6,939 ( 4.8)	6,223 (▲ 5.7)	6,383 (▲ 0.5)	